

へべスの垣根仕立て栽培による早期多収及び剪定の省力化

垣根仕立て栽培は開心自然形よりも初期収量に優れ、ヘッジトリマー剪定は省力化が可能である

背景・目的

- へべスは消費者ニーズの高まりと夏季の収入源として期待され、県内に栽培が拡大しています。
- へべスは直立性の樹姿で、早期の樹冠拡大が難しく、需要の高い果実は果径が40～50 mm前後、重さ50～80 gであり、小さい果実に合わせた栽培を行うため、収量が上がりにくいのが現状です。
- 大規模経営やカンキツ栽培未経験者の増加に伴い、栽培技術の見直しが必要となったため、早期多収や剪定作業の省力化が可能な垣根仕立て栽培技術を開発しました。

成果の内容

- 株間2.5 mを1.25 mの密植で垣根仕立てにすることで、開心自然形よりも樹冠拡大は遅れるものの、初期収量が1.7～2倍優れます(図1、表1)。
- 垣根仕立ては、剪定にヘッジトリマーを用いると、開心自然形の通常剪定よりも10 a当たり3分の1の作業時間に短縮できます(図2、図3)。

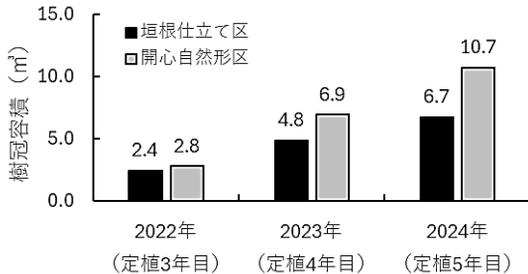


図1 ヘベスの樹形別の樹冠容積の推移

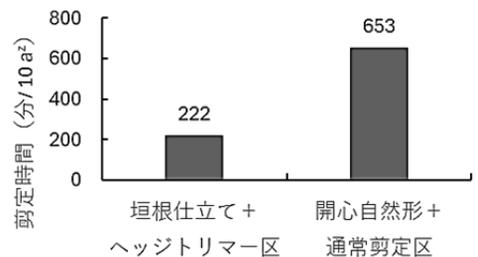


図2 ヘッジトリマーでの剪定の様子

表1 ヘベスの樹形別の初着果からの収量の推移

| 試験区 | 年 | 収量 | | 10 a換算収量 ^z (kg/10 a) |
|--------|------|--------|----------------------|------------------------------------|
| | | (kg/本) | (kg/m ³) | |
| 垣根仕立て区 | 2022 | 1.1 | 0.47 | 226 (1.8) |
| | 2023 | 4.2 | 0.88 | 846 (1.7) |
| | 2024 | 13.8 | 2.06 | 2,756 (2.0) |
| 開心自然形区 | 2022 | 1.3 | 0.47 | 128 |
| | 2023 | 5.0 | 0.72 | 499 |
| | 2024 | 13.5 | 1.26 | 1,346 |

z) 垣根仕立ては200本/10a、開心自然形は100本/10aで換算、括弧内は開心自然形に対する倍率を示す。



z) 垣根仕立ては200本/10a、開心自然形は100本/10aで換算

図3 ヘベスの樹形と剪定方法の違いによる10 a当たりの剪定作業時間(2024年)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 実証展示ほを設置して、生産者への理解や普及を図ります。
- 垣根状に仕立てて密植にすることで、収量の確保につながり、さらに剪定にヘッジトリマーを用いることで作業時間が短縮され、作業の効率化や均一化が図られます。

留意点

- ヘッジトリマーを用いた剪定は、収量や果実品質の低下を招く可能性があることから、大規模園や加工向けなど経営状況に応じて取り組みましょう。

関連研究成果カード：2025年度整理番号24

関連事業名：大規模生産に向けたカンキツ栽培技術の開発と本県オリジナル品種の育成(県単)

研究期間：2022年～2024年